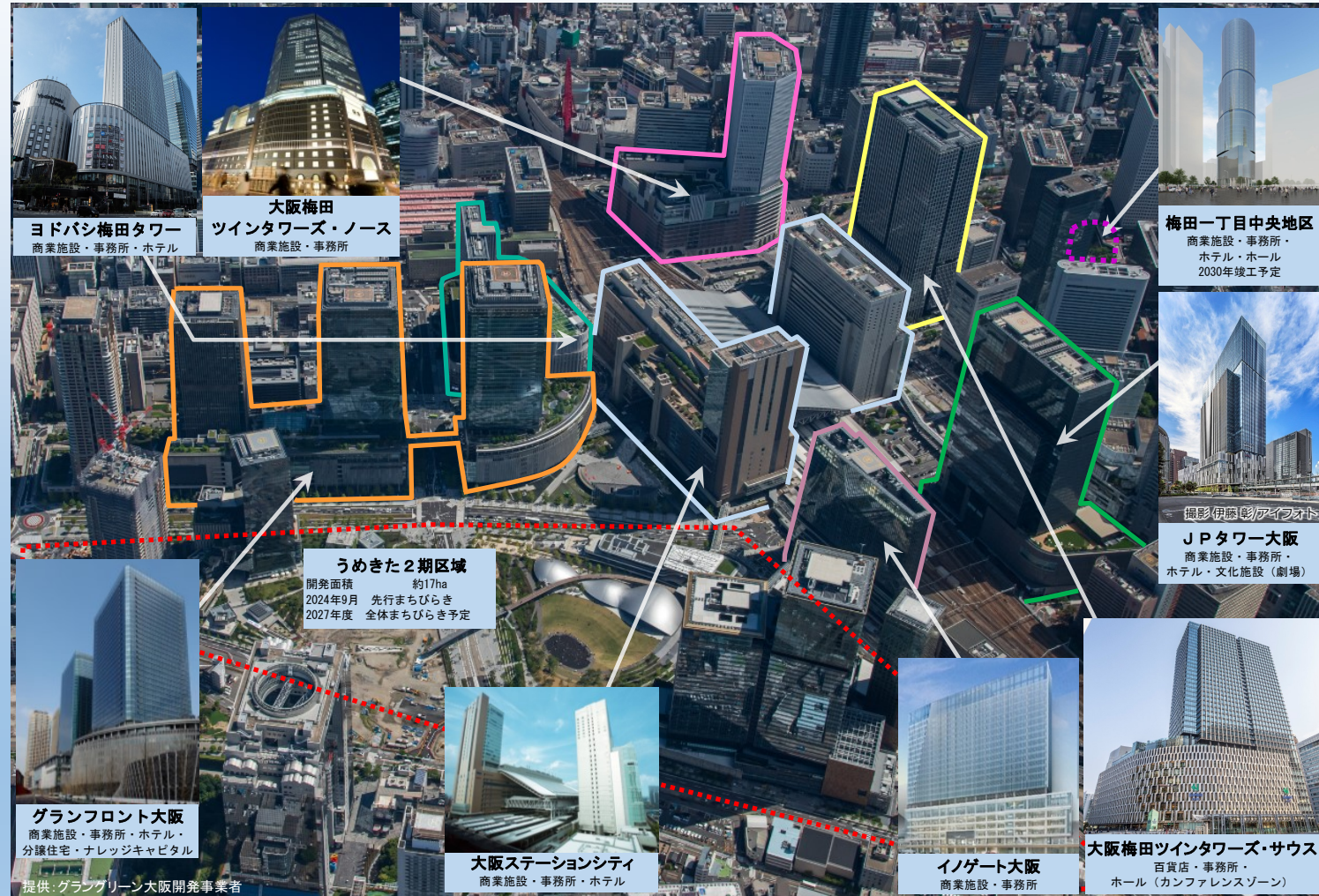


大阪駅周辺地域

大阪駅周辺地域は、1日に約250万人が行き交う西日本最大のターミナルを有しており、関西の主要都市とのアクセス性に優れています。これまで企業の集積や都市基盤の整備が高度に進展しており、今後も様々な民間開発が予定されています。



中之島地域

堂島川と土佐堀川に挟まれる中之島地域は、水都大阪のシンボルアイランドとなっており、古くから経済・文化・行政の中心であり、現在でもビジネスの中核機能などが集積し、芸術・文化の発信拠点としての役割も担っています。こうした地区の特性を活かし、これまでのビジネス・文化・MICE機能の集積に加え、大阪中之島美術館や、未来医療国際拠点の整備などにより、国際的なビジネス・文化・学術・交流拠点の形成を進めています。



大阪駅周辺地域（うめきた2期区域）

うめきた 2 期区域のまちづくりは、大阪・関西の発展を牽引するだけでなく、我が国の国際競争力の強化に資する拠点の形成をめざし、都市基盤整備を推進するとともに、「みどり」と一体となって世界をリードする「イノベーション」を生み出す中核機能の実現に向けた取組を進めています。



【民間開発】

○北街区

中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と
産学官民の交流ゾーン

施設：ホテル、イノベーション施設、商業施設、分譲住宅

○南街区

国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、
世界からのビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン

施設：ホテル、オフィス、商業施設、都市型スパ、MICE施設、分譲住宅

○公園施設

都市公園内に設置許可施設として賑わい創出機能、イノベーション機能、飲食機能を有する建築物等を整備

機能、飲食機能を有する建築物等を整備

【都市基盤整備】

○JR東海道線支線地下化及び 新駅設置事業

JR東海道線支線を移設・地下化し新駅を設置

※新駅は大阪駅（うめきたエリア）地下ホームとして2023年3月に開業

○土地区画整理事業

大阪駅前にふさわしい土地利用を支える道路や駅前広場を整備

○防災公園街区整備事業

区域の中心部に約4.5haの都市公園を整備

スケジュール

2024年9月	先行まちびらき
2027年度	全体まちびらき

新大阪駅周辺地域

国土軸と大阪都市軸を繋ぐ新大阪駅周辺地域（新大阪・十三・淡路）は、リニア中央新幹線、北陸新幹線、淀川左岸線など高速交通ネットワークがさらに充実していきます。この地域ならではの全国・世界につながる交通基盤を活かし、駅とまちが一体となった「世界有数の広域交通ターミナルのまちづくり」に向けて、新大阪駅エリアの都市再生緊急整備地域の指定（2022年10月）をきっかけに、2040年頃を一つの目標にした取組をはじめています。

